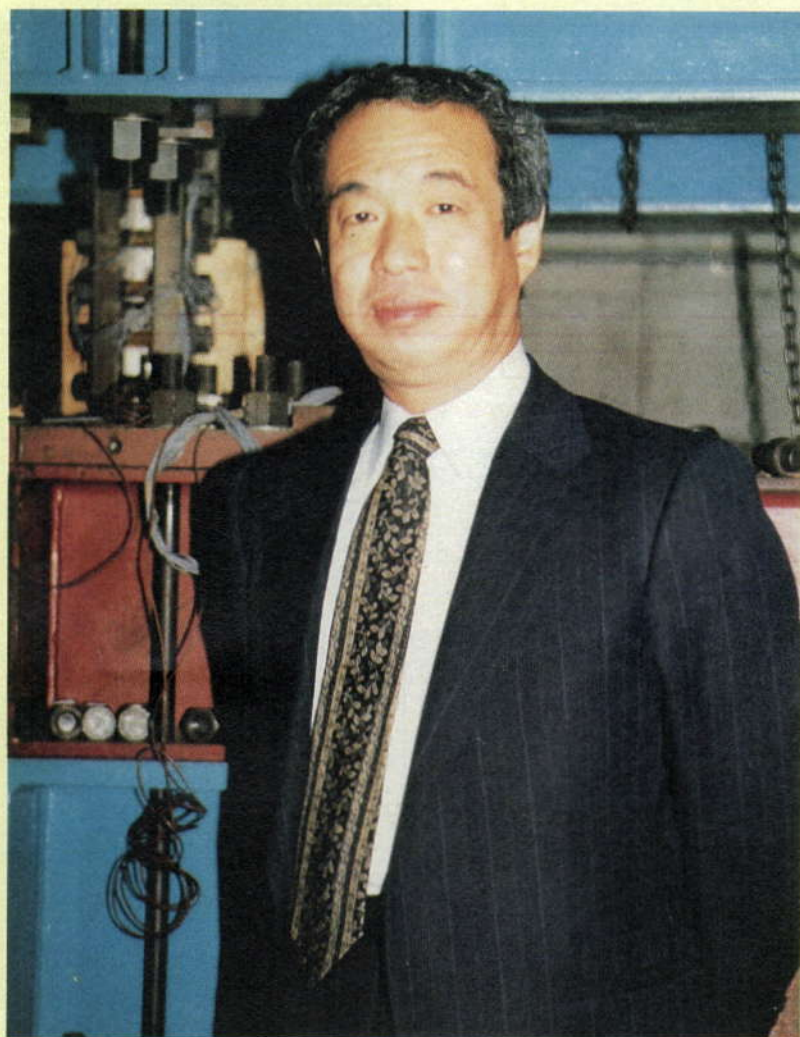


Mr. STRUTEC

免震建築を常識に

わだ あきら
和田 章氏

東京工業大学 建築物理研究センター長 教授



1946年1月11日生まれ 岡山県出身 70年東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了 工学博士 70年～81年日建設計 82年東京工業大学助教授 84年4月～7月米国ワシントン大学外国人講師 89年東京工業大学教授(工業材料研究所) 91年4月～7月米国マサチューセッツ工科大学客員教授 97年東京工業大学建築物理研究センター長 95年日本建築学会賞(論文「建築構造物の非線形挙動の解明とその応用に関する一連の研究」) 著書に「一次元部材論」(共著)、「免震構造設計指針」(共著)ほか 趣味は音楽

免震建築の推奨・普及のために、「最近では宣教師のような心境で働いている」と微笑む。「絶賛免震建築」と題して「建築雑誌」97年11月号に掲載された文章も、そのひとつ。最近刊行された「免震構造入門」や「4秒免震への道」、「免震積層ゴム入門」などにも共同執筆者として参加している。

「免震建築は、地震動そのものの不明確さを免震層の変形振幅の不明確さに置き換えられる。この変形に対する限界にある程度の余裕を持たせておくことで、耐震性を保証することができ、免震建築は分かりやすい明快な構造だ」と免震建築が常識になることを期待している。

東京オリンピックの年に大学に入学、修士課程を修了して、日建設計に入社し、構造解析理論の構築やコンピュータープログラムの開発などに携わった。「自分が開発したものが実際に使われ、その使用実績をソフト開発に活かすという循環があった」と懐かしむ。81年9月に論文「繰返し荷重を受ける鋼構造骨組の3次元弾塑性大変形解析に関する研究」で学位を取り、翌年、東京工業大学で教鞭をとることになった。

コンピューターによる構造計算に携わって以来の情報技術の建築への応用と免震・制振構造の研究を軸に建築学会では情報システム技術委や振動運営委などで活躍している。

「建築の機能維持、財産保全を含めて考えると、純ラーメン構造の耐震性には限界があり、免震・制振技術の適用が不可欠」と繰返している。

文：宮本 徹・写真：渡辺かすみ